

# 攻めの低燃費車 工夫重ね



栃木県で十月に開催される自動車の燃費性能を競つ全国大会「Honda Ecomile Challenge」出場に向け、穴水町由比ヶ丘の石川職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ石川）生産技術科の二年生六人が、先輩から引き継いだ従来車両と、自作した超低燃費自動車の新車の二台体制で上位入賞を目指して改良を重ねている。二十一日には新車のテスト走行を輪島市内で実施し万全を期した。

（小林大晃）

## ポリテクカレッジ 10月全国大会出場

日曜で使われていらない輪

島総合自動車学校（同市横地町）の教習コース。前輪二つ、後輪一つの全長約三

分の細長い車両二台に、ヘルメットをかぶった学生があおむけに乗り込んだ。ゆ

っくりと動き出し、最初の直線に入ると「ボボボツ」と大きなエンジン音を立て加速。一周三百十㍍のコースを惰性走行で周回した。

大会では規定周回数を時間内に走行し、ガソリン消費量から算出された一ドリッタリーの走行距離を競つ。卒業製作の一環で低燃費自動車の製作に力を入れる同大学校は、二〇一七年から毎年出場。一八年に一㍍五百一キロを記録し、七十四台中十六位に入ったのが最高だ。

新型コロナウイルスの影響による中止を挟み、ことしは三年ぶりの開催となる。好成績を出すには、車体を軽量化し空気抵抗を減らすことが鍵を握る。学生たちは地元の金属加工メーカーなどで技術指導を受け、部品の立て付けまでこだわり、四月から製作と改良を取り組んでいる。完走を目指す従来車両は既製エンジンを改造し、排気量を落と

してガソリンの消費を減らす工夫もした。

新車は故障覚悟で記録を

追求するための「攻めた」車両。木材を多めに使って

軽量化し、エンジンと車輪をつなぐ部分にクラッチを採用するなど推進力への抵

抗をできる限り減らした仕様だ。学生たちの発想が存分に生かされている。同大

学校によると、一㍍二千キロが優勝の目安で、従来車両はこれまでの走行試験で一千五百キロを見込める結果が出ている。今回のテスト走行で新車は推計で一千五百キロ以上に届く結果を得たが、各車両も発生し安定性には課題も残した。九月にもテスト走行を実施する予定だ。

ドライバーの運転スキルも大事な要素だが、狭い車内はエンジンの熱がこもる過酷な環境。チームリーダーでドライバーも務める中村亮太さん（二）は「知り合いかが出場したのに憧れ、出たいと思った。免許取りたてのペーパードライバーだけど、運転の腕も上げて上位入賞を目指したい」と意気込む。指導役の松本敦教授（五）は「社会に出る前に表彰台に立たせて、自信を持つて送り出したい」と学生たちを見詰めた。

学生たちが製作、改良した超低燃費自動車の従来車両を新車。新車は車体上部を覆う部品なしで試走した＝輪島市横地町の輪島総合自動車学校で